

教科・科目	商業・ビジネス基礎	単位数	4（前期2＋後期2）		
		ライン	2	開講期	前期と後期
備考					

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p> <p>(2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	ビジネス基礎 新訂版（実教出版）

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 商業の学習とビジネス 第2章 ビジネスとコミュニケーション 第3章 経済と流通の基礎 第4章 さまざまなビジネス	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第5章 企業活動の基礎 第6章 ビジネスと売買取引 第7章 ビジネス計算 第8章 身近な地域のビジネス	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期4回以上、後期4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録		添削担当者				先生				登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				メディア利用(NHK 高校講座)	
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S		
前期	①	1章 いざ、ビジネスの世界へ 私たちの社会とビジネス	前1	1 3	2 4	4/19	—	4/21	4/23	第1回	
	②	2章 コミュニケーション ビジネスマナー	前2	1 3	2 4	5/10	—	5/12	5/14	第2回	
	③	2章 情報の入手と活用 3章 経済の仕組みとビジネス	前3	1 3	2 4	5/24	—	5/26	5/28	第3回	
	④	3章 経済活動と流通 4章 ビジネスの種類	前4	1 3	2 4	6/7	—	6/9	6/11	第4回	
	⑤	この回は、実施されません。									
	⑥	4章 製造業 小売業 卸売業	前5	1 3	2 4	7/5	—	7/7	7/9	第5-8回	
	⑦	4章 物流業・金融業・情報通信業 飲食サービス業・娯楽業・宿泊業	前6	1 3	2 4	7/19	—	7/21	7/23	第9/ 10/11回	
	⑧	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日					
試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/23	—	8/25	8/27			
後期	⑨	5章 ビジネスと企業 マーケティングの重要性	後1	1 3	2 4	10/11	—	10/13	10/15	第12/ 13回	
	⑩	5章 資金調達 財務諸表の役割	後2	1 3	2 4	10/25	—	10/27	10/29	第14/ 15回	
	⑪	この回は、実施されません。									
	⑫	5章 企業活動と税 雇用	後3	1 3	2 4	11/22	—	11/24	11/26	第15/ 16回	
	⑬	6章 売買取引の手順 代金決済	後4	1 3	2 4	12/6	—	12/8	12/10	第17/ 18回	
	⑭	7章 ビジネス計算の基礎 ビジネス計算の応用	後5	1 3	2 4	12/20	—	12/22	12/24	第19回	
	⑮	8章 ささまざまな 地域の魅力と課題 地域ビジネスの動向	後6	1 3	2 4	1/10	—	1/12	1/14	第20回	
	⑯	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日					
試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	2/7	—	2/9	2/4			

6 先生からのメッセージ

ビジネスにおける企業活動の構造と機能を多面的に分析し、経営・会計・マーケティング・情報処理などの分野を総合的に理解する科目です。ICTを用いて経済主体としての企業の役割を理論的観点から考察し、需要と供給のメカニズム、資本と労働の相互関係、財務諸表の読解など、実務と理論の両面からアプローチします。ビジネスを単なる取引行為として捉えるのではなく、社会的責任と経済的合理性を併せ持つ総合的システムとして理解する学びを展開します。

教科・科目	商業・簿記	単位数	4（前期2＋後期2）		
		ライン	4	開講期	前期と後期
備考					

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p> <p>(2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付ける。</p> <p>(3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	簿記 新訂版（東京法令出版）

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付ける。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第Ⅰ編 簿記の基本 第Ⅱ編 各種取引の処理	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第Ⅱ編 各種取引の処理 第Ⅲ編 決算(1) 第Ⅳ編 会計帳簿 第Ⅴ編 特殊な取引 第Ⅵ編 決算(2) 第Ⅶ編 本支店会計 第Ⅷ編 会計ソフトウェア	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期4回以上、後期4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

「メディア利用（NHK 高校講座）」は学習を深めるために活用してください。NHK 高校講座の番組名は⑥、⑦ページにあります。
放送視聴ではありませんのでスクーリングの出席とは関係ありません。

5 学習の記録		添削担当者				先生				登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				メディア利用(NHK 高校講座)	
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S		
前期	① 第Ⅰ編 簿記の基本 第1章 企業の簿記 第2章 資産・負債・純資産	前1	1		2	4/19	—	4/21	4/16	第1/2回	
	3			4							
	② 第3章 収益・費用 第4章 取引と勘定	前2	1		2	5/10	—	5/12	5/7	第3/4回	
	3			4							
	③ 第5章 仕訳と勘定への記入 第6章 仕訳帳と総勘定元帳	前3	1		2	5/24	—	5/26	5/21	第5回	
	3			4							
	④ 第7章 試算表 第8章 決算	前4	1		2	6/7	—	6/9	6/4	第6/7/8回	
	3			4							
⑤	この回は、実施されません。										
⑥ 第Ⅱ編 各種取引の処理 第1章 現金と預金の記帳 第2章 商品売上の記帳	前5	1		2	7/5	—	7/7	7/2	第10/11/12回		
3			4								
⑦ 第3章 掛取引の記帳	前6	1		2	7/19	—	7/21	7/16	第12回		
3			4								
⑧	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日						
試験	レポート前1～前6の内容		本試験		追再試		8/23	—	8/25	8/27	
後期	⑨ 第Ⅱ編 各種取引の処理 第4章 手形取引の記帳 第5章 その他の債権・債務の記帳	後1	1		2	10/11	—	10/13	10/8	第13回	
	3			4							
	⑩ 第6章 有価証券の記帳 第7章 固定資産の記帳	後2	1		2	10/25	—	10/27	10/22	第14回	
	3			4							
	⑪	この回は、実施されません。									
	⑫ 第8章 販売費と一般管理費の記帳 第9章 個人企業の純資産の記帳 第10章 個人企業の税金の記帳	後3	1		2	11/22	—	11/24	11/19	第15/16回	
	3			4							
	⑬ 第Ⅲ編 決算(1) 第1章 決算整理(その1)	後4	1		2	12/6	—	12/8	12/3	第17回	
3			4								
⑭ 第Ⅲ編 決算(1) 第1章 決算整理(その1)	後5	1		2	12/20	—	12/22	12/17	第17回		
3			4								
⑮ 第Ⅳ編会計帳簿 第Ⅴ編特殊な取引 第Ⅵ編決算(2) 第Ⅶ編本支店会計 第Ⅷ編会計ソフトウェア	後6	1		2	1/10	—	1/12	1/7	第18回		
3			4								
⑯	この回は、実施されません。				教科別質問教室に出席した日						
試験	レポート後1～後6の内容		本試験		追再試		2/7	—	2/9	2/4	

6 先生からのメッセージ

簿記は、企業の経営活動を帳簿に記録・計算・整理する方法です。企業のお金の流れや経営状況を把握し、意思決定や報告に役立ちます。また、将来の仕事や起業の基礎となる知識です。CBT方式での検定試験の受験を目指し、簿記を学ぶことで経済の仕組みを理解し、お金に関するスキルを身に付けることができます。全商簿記実務検定3級の資格に興味がある人は、ぜひ履修してください。